

NIKKEI BUSINESS DAILY

Smart Times

詳しく紹介をしたい。
20世紀初頭にオーストリアで活躍した、経済学者であり銀行頭取を務めたヨーゼフ・シュンペーターは、著書『経済発展の理論』の中で「経済成長を起動するのは異分野の起業家による

前回、大手企業とスタートアップの共創を成功させる条件の一つとして「互いのオフィスから離れた場所でプロジェクトを行うこと」と書いた。イノベーションの大きな要素なので、

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート(現リクルートホールディングス)入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

「新結合だ」と提唱した。こな設備がすべて整った、それがイノベーションの語源だの「環境」となる。上司だといわれており、今日のが近くにいると、イントレ共創を支えている。プレナーは進捗をよく聞か共創は、人と人が共鳴し、企画がまとまっていな合つことから始まる。そのくてもそれなりのことを言

も、新鮮な情報は入ってこ同僚や上司と議論していて、新鮮な情報は入ってこいる。さらに、年に数回、出島に集うメンバーと、酒を飲みながら情報交流会を行っている。ネットでの情報交換や検索は便利だが、フェイス・トゥ・フェイスで話

上司から離れ始まる共創

ためには、素直な対話を交わなければならぬ。そうわす「場」が必要だ。当社では「出島インキュベーション」という名称で質の高「場」を提供している。よ。こうなのでは」。上司起業家やイントレプレナーの思考に配慮することに努力(社内起業家)を当社の中を受け入れる内容で、長崎の出島から命名した。社内スペースを作る。こうした「環境」をインと、電話、ネットなど必要

共創は、そこから始まる。すことでお互いの理解が深まり、共感が生まれる。人の輪が広がると、目的に就てどの人や企業がキーとなるのかが見えてくる。「どこの誰と組んだらうまいか」という決まった道筋がない。人と人が出会い、進化しながら共創チームが生まれ、イノベーションが起ころのだ。